

学びの風便り

リーディングスクール通信 11 R5.1 1.6

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



学びの改革のあゆみ 丸ノ内中学校・筑摩小学校

丸ノ内中学校

引き継がれる学び「忠恕ポスターセッション」



丸ノ内中学校では、総合的な学習の時間「忠恕の時間」で、学級を超えた小グループによるプロジェクト型の探究学習に、全校で取り組んできました。（生徒たちの学びを支える丸ノ内中の「先生の学び」については、本通信 6/30 号 <https://www.city.matsumoto.nagano.jp/uploaded/attachment/76322.pdf> をご参照ください）

このうち3年生は「地域経済と飲食」「ザ！鉄腕！DASH!!的生き方」「自然環境」「伝統文化・産業・歴史」の4分野5講座が探究の学びを進めてきました。そして11月6日、「忠恕ポスターセッション」として15ブースを開設し、保護者・1・2年生に向け、探究の学びの発表会を企画・開催しました。

ポスターセッションは、体育館に講座ごとのブースを設け、そこに模造紙大の発表資料（ポスター）を掲示、集まった1・2年生たちに向けて発表後、質問や感想等のフィードバックを得るという形で行われます。3年生はこの過程を時間内に3サイクル行い、1・2年生は3つのブースを自由に選びセッションに参加します。

開始直前の体育館を訪れると、各ブースでは発表の最終チェックが行われていました。仲間を相手に発表練習をする生徒、想定される質問を出し合い模擬対応する生徒…会場全体がこれから始まる「ワクワク感」に包まれています。この間、準備・運営はすべて生徒たちにより進められており、先生たちはその様子を頼もしそうに見守っていました。

やがて1・2年生が入場。進行係が「皆さん、楽しませていましたか？この時間は、これからの学習につながります。考え、伝え合う時間を楽しんでください！」と呼びかけ、セッションがスタートしました。

3年生の生徒たちはポスター資料や、持ち込んだ実物、タブレットに表示した写真を使いながら、自分たちが取り組んできた学びの足跡を語ります。用意した原稿を読む、という姿はほとんど見られず、実感のこもった自分の言葉を力強く届けてくれます。ポスター資料には、キャッチーな見出し、写真、データがレイアウトされ、様々な工夫を重ねてきたことがうかがわれます。発表の分担もよく考えられ、全ての生徒たちが自分の役割を楽しみながら参加している印象を強く持ちました。

参加している1・2年生の姿も真剣そのもの。前のめりの姿勢で発表を聴き、感想や時に鋭い質問を問いかけていました。下級生の質問や感想に対して、3年生たちは、フレンドリーに丁寧に、そして豊かに自分の思いを語っていました。このような3年生の学びの姿は、1・2年生にとっては憧れを伴った「学びのモデル」となっていることが、表情からも伝わります。



会の終わりにあたり、丸ノ内中学校の先生方と連携・交流している軽井沢風越学園の大作先生が、進行係の生徒たちと対話しながら「素晴らしい学びの場でした。探究は『問い』の広がりや深まりのバランスが大切。対象に関わり試行錯誤をつづけるとともに、多くの他者とかかわり助言を得ることが深まりにつながります。」とエールを下さいました。

セッションを終え口々に「楽しかった」と感想を伝え合う3年生。全校の生徒にとって「ドキドキ・ワクワク」の学びの場となったこの会は、丸ノ内中学校のこの1年の取組の成果を物語るものとなりました。「探究の学びの楽しさ」がこうして後輩に引き継がれていきます。





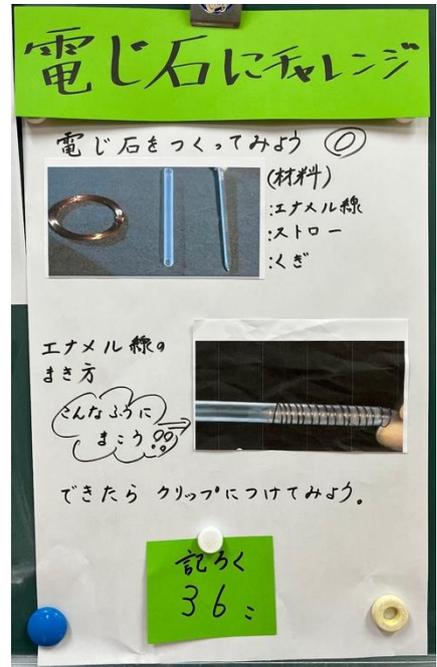
今年度、筑摩小学校では自由進度学習の実践を進め、子どもが主体的に学びを構想する“学びデザインカ”育成の課題を明らかにし、解決することをおして授業改善を進めています。

理科の自由進度学習は問題解決型でスタート

2学期の理科で自由進度学習を行うにあたり、A先生は理科室でこそ体験できる実物を通した学びを「魅力的な事象との出会い」と「子どもが安全に進められる観察・実験」の2つの視点を大切にしながら、単元を構想しています。

強力な電磁石は2人で引っ張っても離れないほど磁力が強いという事象と出会った子どもたちは、身近な材料を使って電磁石を自作します。その際、十分な時間をかけて電磁石にふれることで、後で学習する電磁石の極の存在や強さに気付いたり、知りたい、調べたいという思いをふくらませたりしていきます。

そして、単元の後半に「電磁石をより強くするにはどうすればよいか」確かめる問題解決の場面に自由進度学習を位置づけました。探究の意欲が高まった子どもが安全に実験を行えるように、回路のつなぎ方や器具の使い方はクラス全体で同時に扱います。必要に応じて一斉指導を取り入れながら、子ども自身が学び方や学ぶ内容を選び取って問題を解決していく場を位置づけていきます。



導入での掲示資料
(記録は最も多くクリップがついた数)

「子どもを認めることが増えた」A先生

「普通の授業が子ども主体になるように改善していきたい」という願いをもち、実践を進めてきた理科専科のA先生は、1学期に5年「花のつくり」の単元で問題解決型の自由進度学習を取り入れたときの子どもの姿を笑顔で語ります。

これまでの一斉指導では、子どもは教師が用意した花の断面を手でふれることなく観察していました。それが自由進度学習では、問いを自分で解決できる場を設定したことで、花の中心のつくりはどうなっているか詳しく知りたいという問いを持った子どもが自ら花びらをめくり、顔を近づけて注意深く観察していました。どの場所で、誰と、どのように学ぶかを子どもが自己決定して学ぶことで、「楽しい」「このやり方でまたやってみたい」など子どもたちの前向きな姿が今まで以上に見られるようになりました。

さらにA先生は「子どもを叱ることが減り、認めることが増えた」とも語ってくれました。これは、一斉指導では「ペースを合わせる」「先生の話聞く」ことを求める指導になりがちだったからではないでしょうか。教師が「子ども自身の学びを支える」学習スタイルへと変容してきている姿といえます。

新しいスタイルでの学びに挑戦する中で、子どもの学びを見る目が変わり、それに伴って子どもと教師の関わり方が変わってきています。

お知らせ

- ・筑摩小学校では、11月10日(金)に5年理科で自由進度学習の授業公開を行います。
(授業公開 10:35~11:20、授業研究会 15:00~) 詳細は学校代表宛メールの案内をご参照下さい。
- ★各校の取組み状況を随時松本市教育委員会のホームページでお知らせしています。
(毎週更新) 右のQRコードからぜひご覧ください。

